2003/02/16 産経新聞

与那国の人面岩

3つの民族 描いた!?

1面から続く

■やぶの中に隠れ

■異なる表情…「亀石」「NZ先住民」「遮光器土偶」

■新たな論争も

■与那国海底遺跡 与那国島南岸の新川湾の沖合約100メートル、水深約25メートルの海底に、テラスや階段、回廊、排水溝など人の手を加えて作られたような地形がある。東西約290メートル、南北約120メートルの長方形で、海底部から海上部までの高さは20メートル。昭和61年、同島周辺のダイビングマップを作成するため、調査していた地元の研究者八重瀬が発見し、通称ポイントと名付けた。平成4年から琉球大学理学部の木村政昭教授らによる海底調査で、クジラ穴のあるなぞの石の石積み、線刻石版、動物のレリーフのある岩などが発見されたほか、それ以外にも数多くの遺跡のような地形が発見された。木村教授は放射性同位元素による年代測定から、遺跡の形成年代を約1万年前と推定している。ただ、学界では異論もあり、自然物か、人工物かの決着はついていない。

■北東側の「目」。台状の建物がそびえる。北西側の「目」のラインは与那国町の「亀石」に似ている

■北西側の「目」。「人面岩」という語感も。伊藤県・与那国島（ともに推定地）で、下図は発見グループが描いた人面岩のスケッチ

謎の人面岩

人工？ 自然？

与那国島 海底遺跡近く

3面に続く

「自然物と思えぬ 詳細な調査必要」

識者談話 ▶

2003/03/28 琉球新報

誰が？ 作った？ 運んだ？

謎の人面岩

与那国で発見

地元「観光資源に」期待

与那国島新川集落にある「海底遺跡」近くの丘陵地に、三面が顔の形をした岩の構造物があるのを東京の研究グループがこのほど発見した。岩には目鼻のようなくぼみや口に当たる穴があり、岩を敷き詰めた「土台」の上に鎮座している。

研究グループ 来月、再調査

同グループでは「人工的なものだという以外、現段階では説明できない」として、四月上旬に再調査に入る予定。一方、地元の行政、観光関係者は「新たな観光資源として期待できる」と新発見を歓迎している。

謎の「人面岩」を発見したのは、東京のアマチュア考古学研究グループ「真トンボ」。「神々の出現」を解説した大宮隆さんや、歴史研究家の鈴木地さん、事務局の桜井一さんら子供八人のメンバーや、「夏休みの宿題をやってみよう」と誘われた近所の子供達が加わった。

地元の古老からの聞き取りなどを基に、昨年十二月に鈴木さん、三人が新川集落の遺跡探索をしたところ、翌日付近で「人面岩」を発見した。

鈴木さんは「雑木の中を調べていたらいきなり顔の形をした岩が現れた。見た瞬間ぞっとした」と発見当時の心境を明かす。

「目」のくぼみに「口」のような穴が明かれた「人面岩」＝新川集落の遺跡（真トンボ提供）

岩は神谷の「海底遺跡」を見下ろす位置にある。岩はと土台に敷き詰められた岩々は完全に切り離されており、自然物には考えにくく、遺跡の一部とみられる。岩の穴の内側には「人工的」と思われる穴があった。鈴木さんらは「高さをそろえて敷かれた土台はどうやって岩が載ったのか。誰が運んできたのか。考えられない」と「人工物」の可能性を指摘している。

一方、与那国町町観光課の観光振興係は、観光資源の価値として「いろいろな関係にいろいろな線があり、（人面岩も含めた）『遺跡』のような資源がそろうように、海底だけではなく陸上をも含めた全体を網羅したマップのようなものを作りたいと思う。大切にしたい」と意欲をみせる。

また与那国町観光協会の新垣資八郎事務局長も観光の新たな資源として「見所がひとつ増えた」と歓迎になると自信をいっぱいに「与那国に観光に来る方の八割が遺跡を見に行く。遺跡がどうかは専門家の先生に議論してもらいたい。地元も観光もある景の長い観光資源としていきたい」と話した。

2003/05/16 八重山毎日新聞

ロサンゼルス在住のダイバー・グループ

「与那国は世界最高」

ロスからダイバー・グループ

ロサンゼルス在住で、世界各国のダイビングスポットを巡っているというダイバーのグループが、十一から十五日まで四泊五日の日程で与那国島を訪れ、ダイビングを体験。帰国を前に石垣空港で会見し、与那国島のダイビングスポットの素晴らしさをアピールするとともに「また必ず来たい」と話していた。

ロスにある旅行業社「OPENCOAST」のリサ・スレーター社長が今回初めてコーディネートしたツアーで男女六人。一行はこれまでタヒチ、コスタリカ、フィジー、イタリアなど有名なダイビングスポットを訪問しており、沖縄へは今回初来島で慶良間島と与那国島でダイビングを体験した。

ダイビングショップのオーナーのハル・ウェールズさんらは「これまでいろいろな所で潜ってきたがどこよりも最高だと思う。透明度も素晴らしかったし、遺跡ポイントも感動した。またリーフのサンゴ礁は美しく、これからもずっと守ってほしいと感じた」と絶賛していた。

スレーター社長も「島の人々もすごく親切で、文化や生活にもふれることもできた。ミステリアスな遺跡ポイントは多くのダイバーがぜったい興味を持つと思うし、十月ごろにもう一度来島したいですね」と話していた。

遺跡ポイントにびっくり

米国から初のダイビングツアー

神秘の島・与那国を満喫

【与那国】アメリカから初のダイビングツアーの六人が十一日から、与那国島を訪れ「海底遺跡」のポイントなどを潜って、神秘の島・与那国を満喫した。

一行は米ロサンゼルスにある旅行会社のツアー客として沖縄を訪れた。

ダイビング主体のツアーで与那国のほか、座間味諸島などを十三泊して回る。参加メンバーは二十七歳から四十代までの男女。「与那国は世界最高だ」と満足した様子だった。

一行の添乗員のリサ・スレーターさんは「慶良間の海も、珍しい魚が多く透明度は最高だった。与那国の魚は大きく、参加メンバー皆、喜んでいる。遺跡ポイントにもびっくりした。これから、アメリカ東部やヨーロッパの人々も案内したい」と沖縄観光の可能性を評価した。

海底遺跡ポイント周辺を潜る米からのダイビングツアーメンバー＝与那国町

ダイビングツアーの一行＝与那国町

2003/06/29 沖縄タイムス

文化

琉球は沈没したか

小松左京らが海底遺跡見学

「わくわく」が学問の始まり

小説「日本沈没」で日本を海中に沈めたSF作家の小松左京さんが、国立民族学博物館前館長で名誉教授の石毛直道さん、同館名誉教授の小山修三さんら、そうそうたるメンバーと沖縄県の与那国島に「海底遺跡」を見に出掛けるという。記者も同行してみた。

かねて「ぜひ見たい」と考えていた小松さんが、民博を退官した二人に声をかけたところ「そら面白い」と話がまとまった。石毛、小山のお二人は、学者としては"休日"という立場での参加なのだが、さて、どんな見解が出るか―。

人面岩

同行したのは、ほかに小松左京研究会の古参も含む約十二人。「海底遺跡」の第一発見者で、地元ホテルの経営やダイビングツアーをしている新嘉喜八郎さんの案内で島内の探索を始めた。

海に開いた丘に並ぶ石組みは亀甲墓。沖縄に古くからある墓だ。新嘉さんは「出産するときの姿を模した形で、母胎回帰のイメージとされる。海底遺跡に似た部分がある」と解説。海岸へ降りて、かつて岩を切り出すために開けた規則的な穴を指し「こんな穴が海底遺跡にある」と説明した。

一行は脚力に自信がない小松さんを車に残し「人面岩」へ。山上には高さ二㍍を越える丸岩があった。岩には、目鼻のようにも見える凹凸があり"口"あたりから舌状の岩が突き出している。

小山さんが丸岩の上に登り、海の方を眺めた。

ステッキで"舌"の付け根を突いた石毛さんは「石をかませてあるのかな」とぼつり。だが「イースター島のモアイには、はっきりとノミの跡があるんですが、これはないねえ」と、彫像の可能性をやんわり否定した。

後に「私が舌をつくった」と告白する人が出てくるかもしれないし…。

階段状に

さて、「海底遺跡」は、島の南側にあるがけの沖二、三百㍍の水深約三十㍍にある階段状に切り立った巨石だ。新嘉さんによると、東西が約二百五十㍍、南北が約百二十㍍、高さは二十五㍍から二十七㍍の規模だという。

新嘉さんの船で海へ。ダイバーは海へ潜り、石毛さん、小山さんや記者らは「海底遺跡」の上をゆっくり回る船の後部ハシゴにつかまり、水面に浮かびながら視察した。

透明度が高い。下を見ると、空中遊泳しているような高さを感じる。岩盤側面は、スパッと切ったように真っすぐだ。巨大な平面に圧倒される。階段状の段差も見えるが、ダイバーと比べると一つの段がかなり大きい。

船に上がると、小松さんが水中カメラのモニターを見ていた。「僕が落ったら泡の中にたばこの煙が入るだろうな」と言い煙をぷかりと吐いた。

新嘉さんが「一万年前には水面より上だったらしい」と言うと、小松さんは「一万年前なら縄文時代。沖縄には海底鍾乳洞もあるから、水没の物証はある。人工物ならすごい技術だな。今、ゼネコンに造らせたらどれくらいかかるかな」と冗談を交え語っていた。

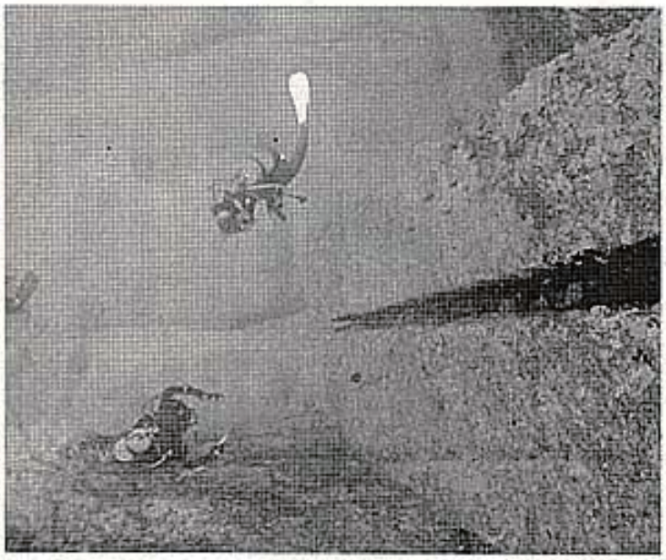
すごい！

だが、モニターの光景に「すごい！」と、次第に引き込まれ「自然の物と思えぬみごとな直線だ。精密な調査をしたら遺物が出るのでは…。道具類が出れば…」と作家の想像力を広げていった。

大陸移動説の大胆な応用で日本を海に沈めた小松さん。「地球はダイナミックに動いている。日本列島は大きな力で押され弓状になった。プラトンが書いた伝説のように、大陸の沈没があったかもしれない。琉球は竜宮だという説もある」と「日本沈没」以来、抱いてきた思いを語った。

「海底遺跡」に縄文時代の専門家小山さんは沈黙を通した。石毛さんも「？」を付けた。しかし「僕たちは、わくわくすることが学問の始まりだと思っているんです。だから小松さんと一緒に来てわくわくした。楽しかった」と石毛さんは笑顔で旅を締めくくった。

ステッキで「人面岩」を指し示す石毛直道さん



巨大な平面に圧倒される「海底遺跡」＝与那国島（新嘉喜八郎氏提供）

〝日本のアトランティス〟

『海底遺跡』崩壊の危機

与那国島

採集放置…

調査、保護指定急げ

日本最西端の沖縄県・与那国島（与那国町）にあり、約1万年前に海底に沈んだ「神殿」跡や「城」跡などと推定されている「海底遺跡」が危機に直面している。「遺跡」指定されていないため表面が破壊されるなどの事態が起きているのだ。〝日本のアトランティス〟の可能性もある貴重な文化財に、国や県の早急な調査と保存が求められる。

（文化部　野崎貴宮）

■17年前に発見

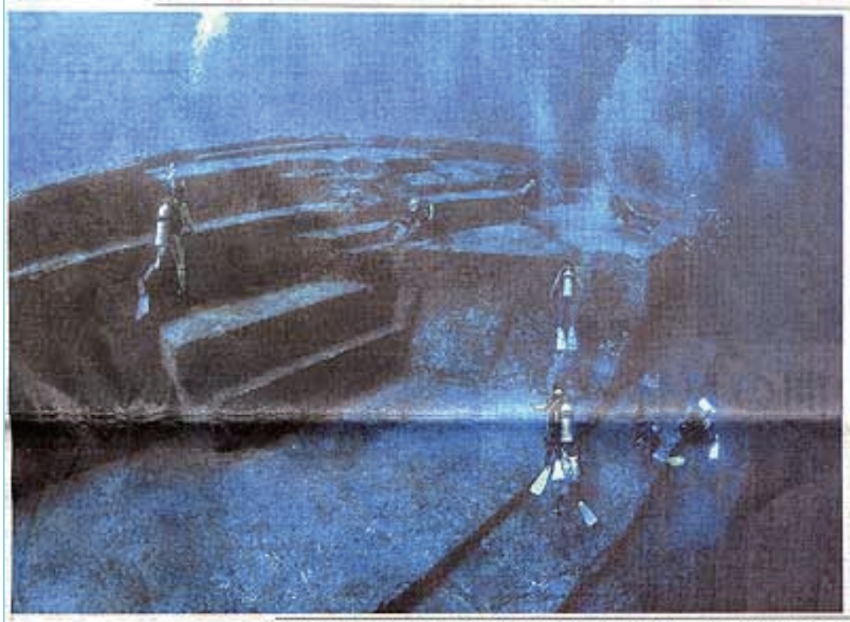
海底遺跡は「遺跡ポイント」（第一海丘）と呼ばれる階段ピラミッド状の構造物を中心とする「遺跡群」で、同島の南沖合約百㍍にある。昭和六十一年に発見され、木村政昭・琉球大教授（海洋地質学）が平成九年から調査を実施。水深二十五㍍の海底から立ち上がった岩盤の上に「メーンテラス」「プール」「階段」（木村教授命名）などが造られている）ことが分かった。昨春は西側部分の海底に「敷石」が確認されている。

全体の規模は長さ約二百九十㍍、幅百二十㍍、高さ二十六㍍。各テラスや階段の縁部は直線的で壁面はほぼ垂直。岩を加工した際に付いた「クサビ痕」と考えられる痕跡も多数見つかっており、インカ文明の石の加工技術を連想させ、波に浸食されてできた地形ではないという。

■届け出は保留

小さな破壊が確認されたのは最近のこと。この貴重な「海底遺跡」は海外でも注目されており、国の研究者らが遺跡ポイントの岩をサンプルとして持ち帰るのをたびたび目撃している。ハンマーのようなもので壊していった、という。遺跡指定を受けていないため採集も自由なのだ。

文化庁によると、遺跡発見の通知を受けて沖縄県が遺跡と認定し、「遺跡台帳」に登録すれば、遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）となる。遺跡は文化財保護法のもとで、発掘などに際して届け出が必要になる。



地元のダイバーらは、外

そこで木村教授は沖縄県文化課の要請を受けて平成十年、県に「遺跡発見届」を出した。ところが県はこの届けをまだ受理していない。

県文化課は「沖縄本島での発掘調査が多く、与那国島まで、予算的にも人員的にも手がまわらない。届け出は「保留」の状況にある。調査の要請はあるが、与那国島の『遺跡ポイント』はすぐに破壊されることはないと考えている」と語っているが、遺跡の発見者である与那国町観光協会筆頭副会長の新濤喜八郎さん（五六）は「破壊は本当に残念な行為だ。海底遺跡のような自然景観は『日本の財産』として保存してもらいたい」と要望する。

「少なくとも」このまま放置すれば、貴重な文化財が損なわれる可能性は十分にある」と木村教授も警告している。

■世界を先取り

二〇〇一年、ユネスコ（本部パリ、松浦晃一郎事務局長）は「水中文化遺産保護条約」を総会で採択した（日本は調印したが未批准）。

元沖縄県サミット推進事務局長（現・在フランス日本大使館公使）の山田文比古さんは、遺跡ポイントに潜った経験から、個人的活動として海底遺跡をパリのユネスコ関係者に紹介したいと考えている。

「海底遺跡の調査や文化財指定の取り組みなどは本来、国がやらなければならないが、今のところ動きがない。私は『与那国町水中文化遺産保護条例』（案）をつくり、公表した。町が世界の動きを先取りする形で条例を制定し、文化財にすることを期待している」と語る。いずれにせよ「遺跡」の存亡がかかる調査は緊急の課題だ。

▲階段状の構造がよく分かる「遺跡ポイント」（第1海丘）。遺跡指定による保護が急がれる

縄文世界をゆく

～三内丸山の視点から～

小山 修三 ―― 13

心引きつける自然遺産

南の強い日差しを受けた海中は、透明なコバルトブルー。海底から巨石群がせり上がっている。広い石のテラス、階段のように見える段差、門柱を思わせる立石。

海中を漂い水中眼鏡でのぞくと、水中ビデオを抱えたテレビクルーが酸素ボンベから気泡を勢いよく出しながら深く潜っていくのが見えた。色鮮やかな魚の群れが彼らの後を追う。沖縄県与那国島の「海底宮殿」はファンタジー（幻想）の世界。沖縄には竜宮城の伝説が残る。昔の人たちはここを見たのだろうか。

「日本沈没」のベストセラーで知られるSF作家の小松左京さん、前国立民族学博物館館長で名誉教授の石毛直道さんたちと、わいわい飲んでいたときのことだ。なんかワクワクするようなことをやろう、と話したのがこの旅の発端だった。

海底の巨石群

前述の巨石群が「海底遺跡か」と注目を浴びたのは記憶に新しい。新聞やテレビ、各種の出版物で紹介され、地元の人たちも熱く見守っていた。

ところが、考古学者や地質学者の多くは、けんもほろろに巨石群が人工の構造物、つまり遺跡であることを否定した。「建物ならば、装飾や加工痕があるはずなのにそれがない」「人間が暮らしていたことを示す道具や生活遺物がない」というのが、主な理由だ。

与那国島沖にある「海底宮殿」。深さ約30㍍の海底に東西250㍍、南北120㍍にわたって広がる（新崎喜八郎さん提供）

ファンタスティック考古学

考古学者（私もそのはしくれだが…）は目の前にあるモノこそすべてと主張し、土器や石器、その型式、時代差、地域差を追い求める。そして、彼らが詳細に研究すればするほど、部外者には分かり難くなっていく。

しかし、考古学者たちの知っている事実とは、真実のわずかな断片でしかない。針の穴から、世界をのぞいて講釈しているようなものだ。

科学を発達させるのは真実と厳密な論理だが、もっと重要なのは独創性で、独創性は乏しい事実の下でつくられた既成概念を打ち破る力となるのである。

米国の考古学者、S・ウィリアムズは、考古学はファンタジーではないかと言う。

海底に沈んだとも言われる謎のアトランティス、ムー大陸、日本で驚異的な売り上げを記録したグラハム・ハンコックの「神々の指紋」、古代の秘密に迫る冒険映画のヒーロー、インディ・ジョーンズ…。

荒唐無稽（むけい）な古代社会の話は、都合の良い事実の張り合わせや、狂言、詭弁（きべん）、時にはねつ造を伴って小説、映画、テレビに現れ、人を引きつける。その力は、細かな事実に執着する現在の考古学にはとても望めないことで、ある意味ではうらやましい。

仮説で科学進歩

どんな人も昔は子供だった。ファンタジーに刺激され、気が付けば学者になっていたという話もよく聞く。そのような事実と幻想のはざまから、時にはキラリと光るような新説が生まれてくる。三内丸山に立てられた六本柱も、それに当たると言っていいだろう。

科学を進歩させる想像力の産物は、普通、仮説という形で提示される。しかし、それが間違いならどうなるのか。

かつて、エクアドルで縄文模様のついた土器が発見され、日本から南米大陸に早期縄文土器が持ち込まれたという仮説が生まれた。縄文時代の航海者がうまく海流に乗ってたどり着いたというのである。

この仮説は結局否定されるのだが、海流を文化伝播（でんぱ）の要因としてとらえたことは、その後のオセアニア考古学研究に大きな影響を与えた。

与那国島の「海底宮殿」が地上に建てられていたとすると、時期的には海水面が現在より百㍍以上低かったヴュルム氷河期の盛期（約二万年前）となる。海水面の変動は地球的な現象なので、比較的よく調べられているが、局地的な土地の隆起や沈降の問題はこれからである。「海底宮殿」をきっかけに、列島の海岸線の変化が明らかにされる可能性もある。

あるいは「海底宮殿」は仮説のままで終わるかもしれない。しかし、その素晴らしい自然遺産を守り続けることで、ファンタジーをかきたてるファンタスティック（幻想的）な場になってほしいと思う。

（国立民族学博物館名誉教授、民族考古学）

※この連載は今回で終わります。

4課体制に機構改革へ

来月、臨時議会に提案

2保育所も統合検討

与那国町議会 一般質問 9月

【与那国】九月定例町議会（東浜功一議長）は二十五日、一般質問二日目などを行って閉会した。一般質問では、我那覇武氏（無）が行革について取り上げ、町側は現行の十課・二委員会体制を、四課とする機構改革案を来月招集予定の臨時議会に提案したい意向を示した。町は同案のなかで、選管を総務課、農業委員会を経済課に統合することなどを検討している。町内に二カ所ある保育所については、統合を検討していく方針が示された。

我那覇武氏

我那覇氏は小中学校の統廃合を進め、その跡地を利用することによって歳入を増やすよう提案したが、当局側は「過疎が進む可能性がある」として否定した。この問題では、二十四日の質疑で、玉城榮記教育長が市町村合併に反対する根拠の一つとして「学校が統廃合される可能性がある」などと述べている。今後、合併問題と学校教育の在り方をめぐる議論を呼びそうだ。

「海底遺跡」と呼ばれる海底構造物の保護については、尾辻町長が条例制定に向けて作業を進める考えを示すとともに、「海底構造物シンポジウム（仮称）」の開催についても言及があった。

これに関連して、池間龍一総務課長は、「海底遺跡」からの岩石採集などを規制するために、町自然保護条例を改正するのが望ましいとの考えを示した。

また、町内の教育施設が八月に落雷の被害を受けたあと、学校教育施設の一部が現在も復旧できないままになっていることが分かった。

議会は一般質問に続いて、「金融環境の改善・金融アセスメント法の制定を求める意見書」の採択などを行って閉会した。

与那国町議会 一般質問要旨

与那国空港滑走路延長事業

我那覇武氏　現在どのような状況か。

尾辻吉兼町長　〇六年十月の供用開始に向けて設置許可を取っている。

クルマエビ養殖場

我那覇氏　海から水を供給しており、養殖池の水温が高い。養殖に適正な温度ではない。エビ養殖場のえさが海に流れ出て、汚染している問題もある。

尾辻町長　この事業の採択時期は方全を期したつもりですが、問題が多いようだ。早急に直すところは直して、職員とやっていきたい。県に持っていってもやっていけるようなデータを集め、県に報告したい。

落雷被害

我那覇氏　落雷で学校に被害があった。

尾辻町長　緊急を要するものは予算の前倒しで対応したい。

池間龍一総務課長　シャッターやクーラーなどは復旧できなかった。教育委員会と協議して復旧していきたい。

海底遺跡

我那覇氏　保護条例の検討委員会を設けてはどうか。

尾辻町長　通称「海底遺跡」は遺跡であろうとなかろうと、その場所は保護するべきだ。条例を作って保護していきたい。

池間総務課長　町自然保護条例を改正して、通称「海底遺跡」から岩石の採集など規制すべきだ。観光の目玉の一つなので、「海底構造物シンポジウム（仮称）」を開催していきたい。

行革

我那覇氏　機構改革をどのように進めるか。

池間総務課長　「小さな行政、大きなサービス」という考えに基づき、四課に統合する機構改革案を十月下旬の臨時議会に提案したい。

我那覇氏　学校を統合すれば、跡地利用によって歳入を増やせる。

尾辻町長　課の再編成が急務。学校の統合によって過疎が進む可能性があり、慎重に検討していく。

池間総務課長　保育所は将来一つにしたい。

全議員の救援金協力を決定

市議会

石垣市議会（小底岡洋議長）は、九月定例会後に全員協議会を開き、台風14号で大きな被害が出ている宮古群島への支援として一人一万円を寄付することを決めた。

今議会中に徴収し、市が設けた宮古群島台風被害救援活動対策本部を通して宮古に送る予定。